



劇社瀑組 第8回公演  
アイホール提携公演

瀑組版

# 越女の森の満開の下

原作 坂口安吾  
台本 藤生 瀑 一人

桜の森の満開の下には

ただ一人の女が咲いた

香も色も風が通り過ぎてゆき

ただ ただ 桜の花びらが

空を舞へていそだけす

あなたには、わたたくしと地獄の底へいっしょに行けませんか？

主演 植生美伽子

■日時 6月25日(土) PM7:00 26日(日) PM7:00 27日(日) PM7:00 28日(月) PM2:00 ■於 AI-HALL (小伊勢駅前) ■料金 前売券 2,200円 当日 2,500円 高校生 1,500円  
■お問合せ・電話予約: 劇団事務所 TEL 06-312-1261 (10:00時) / アイホール TEL 0727-92-2000 ■前売取扱い: チケットぴあ TEL 06-383-9999



**劇社瀑組 第8回公演**  
アイホール提携公演

山有古 蝶木  
口川 川村  
昌洋 佐和  
美希子 子

瀑川 彩米芝植  
一人 端花 田原 田  
一 彰 由優広 明  
人 梨子 子 子

美宮 照明  
元古 浜田 Aina Nouveau 池田  
村川 洋スミ子 祈  
惠美子 太 朗

木打 協典 宣美  
嶋川 力 柳  
茂 吉 井  
雄 玩 (徳本寺住職) 愛一

劇社瀑組から手紙が届く。書簡は巻紙に墨筆で見事な筆跡はいつもながら首鳴する。劇社瀑組について書くようにとのこと。

70年、関西芸術座を脱退した横井新が代表で創立した上方小劇団は、アンクラ劇団として、強烈な個性の俳優たちが集まっていた。私も当時、「テアトロ」誌で、可成詳細に上巻を紹介した。しかし85年、山小助、田田若たち御園園と訣別した。田田若は「まちの芝居屋さん」を作り、山小助は渾一人と改名、「劇社瀑組」を作り、天神橋商店街のシェルターと称するビル地下で劇空間をひらいた。

旗揚げは「恋をしにゆく」86年11月のことであつた。この狭い空間で渾一人の世界が生成し、熟成した。87年『花おんな』88年『恋、こひ...』、桜の森の満開の下、89年の海外公演『アム』、及『恋文—こひ...』の六公演が三年間でつくられた。私はこの中で四作品を見て、『恋文』を見ていないのは私の生まれてはじめての入院のためである。その折、渾さんが見舞いに来て下さり、渾さんが芝居以外のおしゃべり初めてで、彼の細かい心づかいが優しく温かい感性を理解し合うたのしい時間だった。

瀑組の伊丹アイホールへの転進は、祝福すべき発展だった。90年6月『改定版恋文』は、痴呆症の老女を扱ったテーマが、私にはつらく、暗かつたが、海にのぞんだ洞窟のセットをつくり上げた渾の豪放さと執念があかるく感じられる風通して、救ってくれた。『冬の花』では、愛のかたちを冬の花のすがたに託して、はなやかに、きびしく、彩り、舞い、おどり、演じた。渾の見事な逞しい強靱な肉体と、植生美伽子の美しいムーブメントが、渾の追求する劇的なものと、その中にいつも漂い、魅惑的でなければならぬ艶なるものの混交の迫力だった。

92年は、88年シェルターで見た『桜の森の満開の下』の新しい瀑組版の上演がある。彼の「演劇フォーラム」「ワークショップ」の訓練を受けた新人もさらに参加するだろう。予定される岸田理生の『宵待草』や『新釈四谷怪談』、劇社瀑組への私の期待は、増幅をつづける。

元朝日放送プロデューサー 中西 武夫



劇社瀑組の『桜の森の満開の下』(88年12月15~18日、大阪・シェルター)は、坂口安吾の原作が持つモチーフとムードを生かし、妖しく美しい舞台に仕上げた。くろくるとした闇の濃さと、白い桜のなまめきを通して、夢幻の世界を現出した。上方小劇場から独立して三年、なおアンクラに身を縛りつけて、まさに一人の道を行く渾一人のいのちをそのままに、さわやかな劇空間であつた。

鈴鹿峠に住みついた山賊が、奪って来た若い女に身も心も吸い取られ、女のいうままに都へ移り、それにもあいて山へ戻る途中、鬼に変じた女を絞め殺す。ひと口にいえばそれだけのことだが、女を奪い、これを殺した場が満開の桜の下。渾の台本・演出は、半裸の男と薄衣をまとった女と桜の精の群舞に主題を提示したあと、狭い空間に数々の生首を並べたて、花を散らせて退廃美をかき立てる。それに、役者としての渾と美伽子のコンビがいい。美伽子は、原作者が「薄い陶器が鳴るやうな爽やかな」と描写した声をひびかせ、洗練された容姿に野性を吸き込んで、女の生を奔らせた。まっすぐに見開き、誇らしげに欲望を押し出した目も魅力的だ。渾は純一、潔白、力強い男をつくり上げた。苦悩の影が薄いとしてみ、すがすがしさがこれを補った。季節外れながら、狂いと恍惚の優れたドラマだった。

(88年 テアトロ3月号劇評より)  
演劇評論家 大川達雄



劇社瀑組第9回公演予定  
『宵待草』  
原作、岸田理生、構成演出、渾一人

劇社瀑組 渾一人

「昔前には思いも奇になつた。水を買つて、六甲のおいしい水、どこかの湖の水、北海道のアレックス空気、と空気も商売として成立しそうな気配だ。我々を取り巻く環境は、水や空気でもさえない。それ程までに汚れてしまつてゐる。そのうち、これが主大真面目に取り上げられる日がくるような気がする。生かされるものは、すべて土に帰る。ところが、その土のない、帰る地を失つた魂たちは、何処をどうさまへはいいのだろうか？」

僕には、そんな現代の風景と二千年以上昔の心とつとむとりのない、ただ花びらだけか宙を舞つてゐる、桜の森の満開の下、の世帯が奇麗に重なり合つ。安吾は、敗戦直後の何もかもがなくなつてしまつた。価値観も、そんな見えず限りの駆け野原に立つて、桜の森の満開の下、等の作品を生みだしたが、僕は「モノ」を大量消費し、さまざまな情報であふれている現代のコンクリートアンクラ、地下街の雑踏の中でアップアップしながら、安吾とはまた異質の、桜の森の満開の下をお魅せ出来ねばと夢想してゐる。

これは、今から千年以上も昔のおはなしです。ひとりのオドロとひとりのおんなの妖しく美しい、そしてテヨツヒリ恐るしい恋・ものがたりです。

**AI-HALL**

伊丹市立演劇ホール(アイ・ホール) TEL 0727・82・2000

JR○伊丹駅前(大阪駅から宝塚線(=福知山線)で15分) JR大阪駅発★印は快速(12分)・12:39 ★12:47 12:54 13:09 ★13:17 13:24 13:39 (★13:47) 17:39 ★17:47 17:53 18:09 ★18:18 18:24 18:39 (★18:47)  
阪急○伊丹駅から東へ徒歩7分(神戸線伊丹駅で乗り換えて3駅目) ※整理券発行1時間前・開場は開演15分前

『劇的なもの、より劇的なものを求めてのワークショップ 入門篇 其ノ壹』

参加者募集のお知らせ⇒予定日時は、第四回 4月26日(日)、第五回 7月19日(日)、第六回 8月9日(日)、第七回 9月13日(日)、午後一時より六時まで。  
●場所:アイホールカルチャールーム・定員20名・参加費二千円(一回)・要電話予約。週1回の研究生コースも併設、詳細・申込は劇団事務所まで。

